

学園ニュース

富山大学 No.25

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 52 年 12 月 15 日

報 告

工学部長 室 町 繁 雄

去る 2 月 17 日 15 時 5 分、合併授業開始 5 分前、講義教棟の屋根が落ち、渡辺徹也君が重傷を負い、以来早や 9 カ月、皆様方の暖かい御配慮により、11 月 21 日退院致しました。私共は赤飯で、さ、やかな内祝いをし、お互に長い入院生活の苦労をねぎらい、喜び合いました。今後、後遺傷が残らないよう念ずると共に、これから心を新たにしていかに頑張りたいと思っています。

このような事故の遠因が奈辺にあるのか、よくよく

考えさせられます。何か政治の谷間に棄てられている石ころのように思われてならないわけです。工学部五福移転の問題、これは有難いことに、教職員、学生、卒業生皆々様の協力、励ましをいただいているわけで、有難く感謝すると共に一日も早く結着をつけないければならない思いで一杯です。

私のこの度の工学部長 5 選も、これを推進せよ、とのこと、受け止め、その実現に邁進する覚悟でございます。どうか皆様の一層の御支援をお願いする次第です。

新 任 教 官

- 宮崎 州弘 講 師（教育学部） 52.7.1
昭49. 3 東京教育大学大学院教育学研究科博士
課程教育学専攻単位取得
担当：教育学
- 前川 久男 講 師（異常児の病理） 52.7.16
昭52. 3 東京教育大学大学院教育学研究科博士
課程特殊教育専攻単位取得
担当：異常児の病理
- 渡辺 一郎 助教授（教育学部） 52.8.1
昭32. 3 東京芸術大学音楽部作曲科卒業
担当：作曲
- 山下 三郎 講 師（教育学部） 52.9.1
昭34. 3 富山大学教育学部第一中等教育科卒業
担当：保健体育科教育
- 大石 昂 講 師（教育学部） 52.10.1
昭51. 3 東京大学大学院教育学研究科博士課程
教育心理学専門課程単位取得

- 担当：幼児心理
- 丸山 茂徳 助 手（教育学部） 52.10.1
昭52. 3 名古屋大学大学院理学研究科博士課程
地球科学専攻単位取得
担当：地学
- 村上 宣寛 助 手（教育学部） 52.10.1
昭51. 3 京都大学大学院教育学研究科修士課程
教育方法学専攻修了
担当：教育心理学



「富山のイメージ」

教育学部講師 大 石 昂

富山大に着任してから約1カ月がすぎました。この1カ月は、あっと言う間に過ぎ去った気がしますが、他方不思議な事に、1カ月前の東京でのいろんな出来事がまるで半年位前の事のように感じられるという、心理的時間のアンビヴァレンスを感じています。

時間が出てきたついでに空間の事を言うと、北の方に海があるという事、太陽は山側から輝いているという事実も、はじめ何となく異和感を抱いたものです。太平洋側に住んでいる人間にとっては、海というのは、いつも、その側に太陽があり、波しぶきを通してそれが輝くという明るいイメージを持っているのだと思うのですが、日本海側に来てみると、一寸違っているようです。晴天日数が少ないという気候のせいもあるのでしょうか。私のイメージマップが構造的転換を余儀

なくされている所以であります。

富山大について——私が富山大に最初に顔を出したのは9月の末であったと思いますが、その時の第一印象は、何と車の多い大学だろうと驚き、かつ呆れた事です。（この第一印象は特に後半部について正しかった事が、その後色々話を聞き及ぶにつれて確証されているようですが。）その他の点については、学生の様子や建物など特に都内の大学と違っているとは思わなかったのですが。

地方の大学の特色は、地域に色々な点で結びついていて、この点を積極的に踏まえて、研究活動や授業を進めて行きたいと思っています。何とぞ、よろしくお願いします。

(1977. 11. 19)

新任のことば

教育学部講師 前 川 久 男

生まれも育ちも東京、しかも旅行は好きな方ではない、となったら、僕の持っていた富山のイメージがどんな物であったか想像がつくと思います。そう地理の教科書の引き写し程度です。上野から富山に向けての、初めての旅で、列車の窓から見た夏の日本海の青さは、僕のイメージとは掛け離れた、明るく伸びやかな感動を与えてくれました。それから4か月たち、冬を迎えようとしている今、あちこちの家で雪釣りをしているのを見て「いいなあ」などと一人言をいいながら、大学に通っています。見るもの、聞くもの全てに感動しながら、

私自身の富山のイメージを作り変えつつあります。

また大学の中では、20数年に及ぶ「学生」としてのロール・プレイを、「教師」としてのロール・プレイに変えていかなければならない立場にあるわけですが、年令の近い学生に向かって「教師」としてのロール・プレイをすることが、どんなものなのか迷っている最中です。しかし将来同じ仕事をする仲間となる学生ですので、互いに切磋琢磨しあえる関係を作れるような「教師」としてのロール・プレイを果たしていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

夢の中へ

教育学部助手 丸 山 茂 徳

論文を書く時、Introductionでhistorical reviewのあと、現在何が不明であり、その問題を解く為には自分のみつけた方法があって、それを使った結果、問題が解けたと話がつながる。ところが、問題が完全には解けなかったり、発想をアピールしたかったり、思想のこもった original reviewと自画自賛したかったりした時に、Introductionの書きにくい論文に手を出したが

る。

しかし、論文は1つの結論にまっしぐらに突き進む糸が明快であればある程痛快で評価も高いのが読む側の心理でもある。人間あきらめが肝心と、ほぼ出来上がったその種原稿をボツにする時、同時に全く正反対の、縦糸の全くない支離滅裂の話をしたくなることもある。学園ニュースというこの小冊子にはレフェリーが

いなく、おそらく revised version という嫌な活字のつかないものらしいので、いたく感謝している次第です。

井上陽水が辞書をみながら“夢の中へ”と“心模様”を書いたとある人がののしった。だけど、何を見ようが、人を殺そうが杀れる人は杀れるというのが世の中だということは明白で、これは学問の世界と共通していて面白い。彼が普通の人間になって沈黙した後、大麻事件でつかまって裁判官にそらんじたコメントがふるっていた。言葉にスキがなく、法治国家に対する最高の皮肉の切れ味に感激した。それから判断すれば世の中のひずみをセンチメンタルに訴えた彼の初期の名作は、例外にもれずハングリーによって支えられたらしい。ハングリーが名作を生むというのは学問の世界と共通していて面白い。職を掴んでしまったとたん学問に貢献できなくなる。

人と人とが出会い別れてゆく時に、最初と最後でだけ親切に面倒をみてやれば、その人にとって自分は恩人になるというのは名言だと思いませんか。たとえ、

最初と最後の中間で、司馬遼の歴史小説の如く、“バカよチョンよ”とののしったとしても。

私は27才になり結婚適齢期になった。今思えば、身の毛のよだつ交換日記なるものへの憧れから、吉永小百合を経て、印刷になったプレイガールのはしりでもあり自己顕示欲のかたまりのような和泉式部を通過して、屈折したペダンチズムの紫式部に興味がある。ところが、いざ結婚となると貞潔さを求めるのが自分のレベルであり滑稽この上ない。

国民の税金をくらって生活させて頂ける身分になって初めて月給をもらった時、私のこの1カ月は税金泥棒の部に入るのではなかろうかと考えさせられた。その気持と答えは年度末毎に各々思い出し考えようと決めて、給料袋をしっかりとポケットにしまった次第です。

(未完)

未完で終わる快感は格別です。Constructionの苦しみよさようなら。夢の中へ。

新任の辞

教育学部講師 宮崎 州 弘

私は、五島の福江で生まれ、雲仙の麓、島原と長崎で育った。東京生活がもっとも長く、雪の生活経験が全くありません。富山大につとめることが決まり、雪はいやだし、冬が大変だなと思った(今冬の大雪のニュースに青空の続く東京で接していたから)。雪のことは今でも心配である。

私は、学生時代もっぱらアルバイトに精を出し、富山県と福井県以外全国を歩きまわった。その富山県に住むことになったのだから、人生とは不思議なものである。

富山と長崎は対照的な町である。富山市は平坦であ

るが、長崎はオランダ坂が代表する坂の町である。富山県の地形は全体にまとまりがあるが、長崎は島が多く、海岸線も複雑である。富山は城下町で純日本的であるが、長崎は教会とお寺の多い異国情緒のある町である。

しかし、共通点もある。懐しいのは、ガタゴト走る路面電車、長崎の市電の経営に学んで永久に残してほしい。嬉しいことは、魚が新鮮で、美味しく、豊富なこと。雪見酒で冬も楽しいかなと、期待している。

皆様方のご援助を頂き、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

二度目の富山

教育学部助手 村 上 宣 寛

神戸から来ました。経歴は複雑で、富大3年、同志社に2年、京大に3.5年であり、いずれの大学にも4年在学したことはありません。富山での学生生活は悲惨で、3,000円の安下宿にこもり、学園紛争が激しかった時なのでめったに授業には行かず、毎月1万円の本を買いこみ、夜明けまで寒さにふるえながら(当

時、ストーブ等を持っていませんでした。)読みあさった経験があります。

したがって何の因果で富山などに来なければならなかったのかと悔むことしきりで、一応富山に定住して研究活動にはげむと宣言はしたものの、天候がぐずれ始めるとともに自信がなくなろうとしています。

ただ、希望のもてることと言えば、上の先生方が親切であること、助手といっても旧帝大系のように雑用で追まわれる訳でないこと、数は少ないながら富山にも良い友人がいるということでしょうか。

なお、趣味はサイクリング（ロードレーサーを製作中）および山歩き（1,000m以上の経験なし）です。学生時代の誤ちの結果として、絶大な支配力を誇る嫁さん一人と雌猫が一匹おります。

新任のことば

教育学部講師 山下 三郎

昭和34年に富山大学を卒業し、県内小中学校に18年余勤務して参りました。その間、いつでも多くの子ども達にとり囲まれ、時には目を三角にしておこったり、目を細めて喜んだりする生活を致しておりました。

9月はじめに富山大学に参ってからは、生活が一変したわけです。先日、実験のために、学生を数名連れて現場小学校を訪れましたが、自分の受け持つ子ども達が居ないということは、なんと不便なことだと、あらためて痛感致しました。なにせ今までは、自分の都合次第で、いつでもどのようにでも子ども達を動かす

ことができましたし、協力してもらうこともできたわけです。教科教育が専門ですので、今後とも特に小中学校の現場から、資料を取材したり、実験したりする研究が多いだけに、これは大変なことになったと、戸惑いを致しておるところです。

幸い、富山大学は母校です。いまだ多くの恩師もご健在で、非常に心強く思っているわけですが、なにぶんにも未熟者です。どうぞ皆様、よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます次第です。

新任のことば

教育学部講師 渡辺 一郎

東京に居た頃は、釣れる魚はなんでも釣る。川に魚影があれば、必ず糸を垂らす程の釣好きなのですが、富山に来て4カ月最近には竿に解れなくなりました。私は川釣専攻生ですが、多摩川や入間川では魚の数より釣る人の数の方が多いのに、神通川を初めて見た時、水辺に釣人の影がないので、釣れないのかな？とフト不安になりました。

着任早々まず手近な所で……と竿を入れたところ、今まで使っていた仕掛けがブツブツ切られてしまうほど大物が来て、幼い頃はじめて魚を釣り上げた時のような興奮と歓喜に心が浮く気持を味わっていました。背後に小供の声がして、“おじちゃん 何釣っている

んけ”。

“うぐいだよ”。私は内心の得意さを表情に出さずに答えました。

“なんだうごいか。大人の人は皆あっちで鮎釣ってるよ。どうしておじちゃん鮎釣らんのけ”。

それ以来、神通川では釣糸を垂れていません。

剣岳のゴツゴツした山肌に雪がついているのを見て、ああ冬が来るのだな、と感じている今日この頃です。

この素晴らしい自然に囲まれた環境で仕事をし、勉強ができるのを幸せに思っています。

来年は年老いた父を東京から呼んで一緒にくらすつもりです。

家政学とエコトロフオロジー

— ドイツ留学を終えて —

教育学部助教授 中川 眸

私は家政学に身をおいている。日本学術会議の研究分野の分類にしたがえば、家政学は7つの学術部門のうちに入っていない。つまり、まだ学問として認められていないということかもしれない。そういう分野に身をおく一、これは当事者にとっては、自ら選んだ道

とはいえ、限りなく哀しいことである。研究教育職について20余年、私はこの哀しみを自分から葬ってしまいたいと考えたことも数度あった。しかしそのつどに徹し得なかった。

自分のおかれている場を卑下しなければならない罪

人のような意識—家政学への哀しみ—これが私に在外研究員としてドイツに留学することを思いださせ、勇気をふるい立たせ、かつ努力を強いたことは事実である。1949年に新制大学が成立し、いくつかの大学に家政学部が設置され、そしてこれに関係する者は、そのほとんど全部と言ってよい程アメリカの“Home Economics”を模範としながら、日本の家政学の分野における研究と教育にそれ相応の努力をかきねてきた。しかし、大局的にみて、多くの問題が残されたまゝであることはいなめない。こうしたなかで、ドイツの大学には、家政学に相当するものはないというのが日本の家政学界での常識であった。

しかしドイツではそれをエコトロフォロギー(Ökotrophologie)として10年前に発足させていたのである。

私がこの情報を得たのは正直に言って2年前である。それまでの私の情報の得かたに欠陥があったことはいなめない。

この4月(1977)、この学園ニュースNo.22に“Abschied von Toyama”と題する詩を残して京都大学へ転任した文理学部独文(当時)のE. シャイフェレ博士にドイツ語をならいはじめたのは1974年の冬であった。その時間は数人の者の自由な時間でなければならぬため、朝7時に始まったこともあり、又夕方6時から始まったこともあった。当時ミュンヘン大学大学院で経済学を研究中だった彼のディートリッヒ・シャイ

フェレ氏を通じて、私はドイツにおける家政学がミュンヘン工科大学農学部エコトロフォロギー課程として存在していることを知った。

多くの方がたの御厚情と励ましを得て、私は幸運にも昭和51年度文学省在外研究員の栄与を得ることができた。ミュンヘン工科大学農学部エコトロフォロギー課程の主任であるG. ヴィルトブレット教授は、ドイツにおけるエコトロフォロギーを知りたいという私の留学目的を理解してくださって、可能なかぎり講義、演習、実習に参加することを指示し、その合間に実験をするようすすめて下さった。冬学期、夏学期を通して講義5つ、演習2つ、実習2つに参加し、実験は「調理器具を用いて安定性のあるタン白泡をつくるための凍結乾燥卵白の適性に関する研究」というテーマでおこなった。

エコトロフォロギーの理念をあくまで学問的、つまりアカデミッシュに理解しているためか、日本の家政学部のように、学生はすべて女性という不自然な(?)現象はなく、約10%の男子学生がいたことは最も印象に残ったことの1つである。

在外研究員としての研究、考察の成果を今後の研究、教育に存分に活用し、そして精進をつづけていきたいと思っています。不在の間、教官ならびに事務官の方がたからいただいた多くのご好意に対し、この場をかりて心からお礼申し上げます。(1977.11.22)

インド・コチンの町

経済学部助教授 香 川 孝 三

コチンという町の名前を聞かれたことがありますか。多分聞かれた方は数少ないと思います。私自身も2度目のインド行ではじめて訪問した町です。コチンは南インドのアラビア海に面した港町です。世界史でおなじみのヴァスコ・ダ・ガマが最初の商館を1502年に設けて以来貿易港として栄えた町です。彼の墓は今もこの町の教会の中にある。フランシスコ・ザヴィエルもこの町で死亡したといわれているが、その墓はゴアにうつされている。ヨーロッパ人の渡来以前からのシリアン・クリスチャンに加えて、それ以後のキリスト教徒への改宗者がこの町に多く集まっている。ちょうどコチン訪問中に、この地方の言葉であるマラヤラム語でキリスト受難劇が椰子の葉でつくった芝居小屋で演じられていた。

さらにこの町は共産党の勢力の強いことで知られている。コチンを含むケララ州では、共産党がはじめて州政権をにぎったのが1957年です。それ以来国民会議派と対立しつつ、あるいは共同歩調をとりつつ、ケララ州の中で勢力を拡大している。インドで「資本論」の完訳が最初に出版されたのが、このケララ州であり、そのときの訳語がマラヤラム語である。

次にこの町を特色づけているのが冷凍エビに代表される漁業である。アラビア海でとれた漁の集散地であるコーチンを本拠に、M商事を中心とした日本商社は、ここでエビを大量に買付けている。インドから日本に輸出される冷凍エビは、コチンだけではなく、カルカッタからも送られているが、その輸出高は1970年の1470万ドルから、1975年9120万ドルへとふくれあがってい

る。コチンでは、日本への輸出用にとられて、なかなかエビが手に入らなくなり、入っても値段が高くて食べられなくなったという話を聞いた。コチン空港の地方物産展には、誇らしげに日本への冷凍エビの輸出を示す展示がかかげられていたが、日本人の海洋資源への食欲さがあらわにされた様で、その展示場から早々

にたちきった。日本に帰ってから、食卓に冷凍エビのフライができるたびに、インドから来たエビだろうか、とつい思ってしまう。皆様も知らずに、インド産冷凍エビを口にしているかもしれませんね。

この3つの特徴が、コチンの町をインドの中で特異な存在にしている。

研究こぼれ話 「タバコと健康」

教育学部助教授 山 地 啓 司

タバコの煙の中には5%の一酸化炭素(CO)が含まれている。COは酸素のヘモグロビン(Hb)結合能よりも210倍も優れ、体内でHbと結合して、カルボキシヘモグロリン(COHb)を形成する。この反応は可逆性であり、新鮮な空気を吸うことによって、体内のCOは徐々に放出される。COの放出は3~4時間で喫煙直後の半分に激減するが、以後喫煙前のCOHbレベルに対するまでには数日を要する。従って、一般の喫煙者の体内には絶えずある一定量のCOHbが蓄積されていることになる。喫煙者のCOHb量は2~10%(体内の総Hbに対してCOが占める割合)と非喫煙者の10~20倍である。喫煙者のCOHb量は、(1)喫煙本数、(2)喫煙状態(吸煙の強さ・量・長さ:燃焼温度)、(3)タバコの種類(水分量、紙の有孔数等)、(4)口腔喫煙と肺喫煙、(5)周囲のCO濃度等によって異なる。しかも、個人差も著しい。

COHbが4%に達すると、作業成績や反応時間は統計的に有意に低下するようになる。40~50%で、運動は不可能となる。そして、70%に達すると死に至る。喫煙者は非喫煙者に比べ、喘息、肺結核、心臓、血管系障害(高血圧、狭心症、心臓発作等)、ガン等に罹る率が高く、平均寿命も短いことが知られている。これらの病気とタバコに含まれるニコチン、タール及び他の揮発性物質との因果関係については、これまで多くの研究者によって明らかにされているが、COHbとの関係についてはまだ明らかでない。

一般に、大気中にCOが200~300 ppm含まれている時、COHbは10%になるが自覚症状はほとんどない。し

かし、400 ppm (20%COHb)を1~2時間呼吸すると、悪心や後頭部に頭痛を感じるようになる。さらに800 ppm (30%COHb)を1時間呼吸すると、CO中毒の特徴、即ち、頭痛、めまい、嘔吐、視力の減退、倦怠感等が顕著となる。

現代生活では、非喫煙者といえどもCOの呼吸は避けられない。なぜならば、大気中には多少の差こそあれCOが含まれているからである。東京都の主要交叉点近くの大気中には10~20 ppmのCOが検出されている。この値は我国の環境基準の20 ppm以内にある。一般に、屋外の大気中のCO濃度は比較的少ない。一方、カナダ、トロント市内にある比較的換気状態の悪いナイトクラブ、レストラン等の屋外での調査では、20~50 ppmであった。50 ppmの室内に1時間余り滞在すると非喫煙者のCOHbは1.6%~2.6%となり、その室で6本のタバコを喫った喫煙者では5.9%~9.6%になった。また、同じ環境下でのナイトクラブの従業員のCOHbは非喫煙者にもかかわらず約5%にも達した。また、密閉された車の中で1時間に10本のタバコを吸うと、車内のCOレベルは90 ppmとなり、車内の2人の非喫煙者のCOHb量は2%~5%になった。

このように、非喫煙者といえども、喫煙が許されている換気の悪い室に長時間留まることによって、喫煙者とはほぼ同量のCOHbが体内に蓄積されることになる。さらに、非喫煙者のCOに対する感受性は喫煙者に比べ鋭いことから、条件は非喫煙者の方が不利となる。従って、ヒトは禁煙を励行するのは勿論、絶えず、室内の換気を配慮しなければならない。(本稿は多くの研究者の報告を基にして、reviewしたものである。)

ドイツの教育大学に留学して

教育学部社会科専攻生 前 田 貴 恵 子

まさにドイツの歴史そのものが展開されている当国 西ドイツで、日本とはまるで異なった文化・習慣・

環境の中に自らを置き、そこに生活している人々と直接触れ合うことによって、彼らのものの考え方を知り、それを肌で感じる事ができたこの貴重な体験は、「ドイツ史」はもちろん「歴史教育」を勉強する際に接するひとつひとつの事柄に対し、それまでの外面的にしかできなかった把握から、さらに内面的な把握へと深い目で見える態度をはぐくんでくれました。それは歴史で言えばドイツで起こった歴史的事実も単なる事実として受け止めるのではなく、そこに潜むドイツ精神なるものを追求しようという気持ちにまでなったということです。

私は「ドイツ史」について、また「歴史教育」について学ぶためには、それらが根ざしているドイツ人の心・考え方を知ることはぜひとも必要であり、また、そのためには目の前のいろいろな機会を利用すべきだと考え、歴史以外にも他のいろいろな授業を聴講してみました。

まず驚いたことは、演習形式が授業の殆んどを占め、日本のような講義がほんのわずかしかなかったことです。しかも、それらの授業が基礎演習、初級演習、中級演習、上級演習というふうに4段階に構成された充実した徹底的な教員養成のシステムをとっていたことです。

私は歴史や教育学の他に数学・神学・地理・哲学・ドイツ語の授業にも出席しました。その中で特に興味深く思った授業は、キュメンル教授（今年11月15日に富山大学で講演があった）の「教育実習入門」という授業でした。その中では、夏期・冬期の二学期間に渡ってグループ活動が行われ、その期間の始めと終りのわずか4回を除いては、教授の授業へのタッチや全グループが1度に1箇所に集まるということがなく、グループの運営はすべて各々グループにゆだねられていました。この授業は、私たちに教育の場で実際に子供にグループ活動をさせて授業を進めていく場合に生じてくる問題点に気づかせ、それについてどのように対

処していくべきかを考えるよう意図された実験的経験的授業のようでした。

どの授業にも、現場に立つ教師の子供に対する取り組み方が論じられ、子供の考え方、心理的な面を追求しながら、彼らの授業への興味や集中力及び創造力などを考え合わせていこうとする授業形態が、授業の中に流れているのが強く感じられました。それらは実際に教育実習におおいに役立つものでした。

また、歴史教育にしても数学教育にしても、単に歴史的事実あるいは数学的事柄を対象にした授業を扱う教育としてそれらを各専門教育をもとりまく全体的な教育としてまずとらえ、教育の原点なるものにいつも帰って、子供の授業態勢を見ていこうとする授業のやり方に、私は合科教育を生み出したドイツ人の精神に歴史的に相通ずるものを感じずにはいられませんでした。ここには、根本的なことからまず徹底的に追求し、築いていかなければならないとするドイツ精神が流れているような気がします。しかし、私がドイツ精神なるものをいくら説いてみても理解することは難しいかもしれません。

さきにのべたキュメンル教授の恩師で富山にも来られたことのあるO・F・ボルノー教授のことばで言えば、ひとは他人の経験を経験することはできないでしょう。

しかし私は、今回の留学において、そういうものを少しなりとも心に感じる事ができたことは、ひとつの成果であり喜びだと思います。今後さらに「ドイツ史」に限らず教育全般を考えるにあたって、今までにない深い目で追求していけるだろうと思い、またそう心がけていきます。

最後に、この留学にあたって、懸命に働いて下さいました教育学部の教官、及び事務官の方々の御苦勞に心から感謝したいと思います。

× × ×

× × ×

* 工学部だより *

計 報

工学部生産機械工学科教授・工学博士 山田正夫先生は、去る8月13日午前8時30分急性心不全のため永眠されました。享年53才。

ここ数年来、アルミニウム合金の超塑性挙動に関する研究をお進めになり、その成果が世界的に

も注目されるに至った時お亡くなりになったことは非常に残念なことです。長年にわたる教育研究上のご功績により、先生は8月13日付をもって正四位に叙せられ勲三等瑞宝章を頂かれました。

ここに、慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

教育学部附属小学校創校百周年を迎える

明治10年12月、石川県第二師範学校附属小学校として創立されて以来、幾多の変遷を経ながら、本年度満100年を迎えた。同校同窓会を主体とする創校100周年記念事業実行委員会により、多彩な記念行事が主として11月20日から23日までの4日間にわたり催された。

まず、11月20日に記念式典と祝賀会が多数の来賓を迎えて盛大に催され、翌日は記念講演会として、同校を昭和18年の卒業生であり、また橋梁工学の専門家、本四架橋の理論的指導者である、現東京大学工学部伊藤学教授による『橋の話』と題して有意義な講演がな

された。

児童による記念学習発表会を、11月22・23日に児童及び同窓生一般を対象に、日頃の練習成果を発表し、多くの父兄や同窓生などの観客から盛んな喝采と声援を受けた。

一方、児童作品展、百年資料展及び同窓生による作品展が、記念祭期間中同校舎の2、3階の各教室に展示され、多数の参観者があった。

これらの行事のほかに、附属小学校百年史、百周年記念論文集、同窓会名簿が記念として出版された。



西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学教授（音楽学・音楽教育学）

エーバーハルト・シュティーフェル博士を迎えて

去る9月23日晴上った秋空の羽田空港で西ドイツ、ロイトリンゲン教育大学音楽科主任のシュティーフェル教授夫妻を出迎えた。其後約4週間、盛りだくさんに計画された日程を事なく終えられて、10月19日モスクワ経由で無事帰国の途につかれた。

1974年に教育学部から文部省の教員教成大学海外派遣留学生として、西ドイツ、バーデンヴェルテンブルグ州にあるロイトリンゲン教育大学に音楽専攻学生を留学生として送り出したのを初めとして、1975年には理科（化学）専攻学生、1976年には社会（歴史）専攻生が次々と留学し、今年もまた音楽専攻学生がロイトリンゲンで勉学している。

最初の学生が留学しているとき、たまたま私が文部省短期在外研究員として西ドイツ、オーストリアに出かけた機会に、学生を励ますことと、学長やお世話をいただく2人の教授（音楽教育学担当のシュティーフェル教授と、生活の面倒を見ていただく教育学担当で大塚教授の学友であるマウラー教授）にご挨拶するためにシュツットガルトとチュービンゲンの間に位置するロイトリンゲン教育大学を訪問したことがある。今では「富山大学の留学生のために学生寮の一室を確保してある」という好意的なお便りを学長から本学教育学部長宛にいただく程連繋は緊密になってきた。

シュティーフェル教授と私は其後も留学した学生と

共に絶えず文通してきたが、今年の4月の便りで、このたびの富山大学訪問の意向が知らされた。日本の音楽教育の実情、特に小・中・高の音楽教育の現場を視察したいこと、西ドイツの音楽教育の現状の報告をとおしての相互交流を目的とされ、講演を何回か計画してほしいなどの要望もあった。この期待に添うべく計画をたてた。講演は本学の公開講演も含めて5回、小中学校の参観では附属小中学校、堀川、新庄小学校、砺波市般若中学校とした、また世界的に有名になりつつある才能教育研究会本部（信州、松本市）を訪ね、会長鈴木鎮一氏の「母国語の育つ原理による音楽教育法」をきかれた。観光では民謡の古里、五箇山と能登半島一周を企て、京都や奈良では日本の伝統美を觀賞され、浜松のピアノ工場見学と多彩なものであった。

本学での公開講演は「西ドイツの音楽教育」と題し、1.近代音楽教育法の傾向 2.西ドイツにおける音楽教育に対する国家ならびに社会の態度について 3.西ドイツ音楽教育制度の概観 4.一般教養学校、音楽学校の音楽教師及び音楽個人教授のための音楽教師養成のあり方などが論ぜられた。小中学校及び高校教師対象の講演会（富山県教育委員会主催）は「創造性と音楽教育学——その心理学的基礎と音楽教育上の意義——」という演題であった。その項目だけをあげると次のようである。

- I 現代社会に対する「創造性」の意義
- II 創造性についての従来の心理的研究における諸認識
 - 創造的な人物の諸特徴
 - 1.問題に対する鋭敏性 2.流動性 3.柔軟性
 - 4.独創性
 - 創造のプロセス
 - 1.準備段階 2.潜伏段階 3.ひらめき段階
 - 4.検証段階

- III 教育科学における創造性
- IV 音楽授業に対する結果
- V 創造的な音楽授業のモデル

体験と実践に裏付けられた理論構成は、講演を聞くものにとってたいへん説得力のあるものであった。日本の教育、とりわけ音楽教育にとって、得るところ、そして反省を強いられるところ多々あり、この種の交流の有意義なことを痛感させられた。(教育学部大沢欽治記)

教育学部主催公開学術講演会

フリードリッヒ・キュンメル教授：子供・学校・社会

昭和52年11月15日(火)午後1時半より、教育学部第1会議室に、目下京都大学客員教授として滞在中の西ドイツ、ロイトリンゲン教育大学教授(哲学・教育学)フリードリッヒ・キュンメル博士を招いて上記の題目のもとに2時間の講演会がもたれた。大学内外からの教員及び学生約120名が参加し、講演終了後も約1時間の熱心な質疑応答がつづけられた。講演の内容要旨は、次のようであった。

17世紀頃より次第に発展してきた教育の理論形成努力、とりわけルソーの著『エミール』以来、それまでの社会志向型の教育に対して、人間であることが唯一の使命である真の、全面的な人間としての子供を志向する教育の理論形成の価値は高く評価しなければならないが、他面において実際の教育は、いぜんとして古い社会志向型に従い、それは公的な学校諸制度の型をとってますます増大しつつ現実に教育を規定してきた点を見のがすことは許されない。この矛盾、ディレンマは、理論自身のなかにもあらわれた。すなわち、教育学が発展するほど、つまり、子供時代を教育学的にきわだたせればきわだたすほど、子供は大人の世界から隔離され、遮断されることになった。20世紀にもなると学校は子供を隔離する「検疫所」となり、子供は学校へ「教育的に入営」させられるありさまを呈する。学校は社会が教育学に要請した「窮余の一策」であるには違いないが、同時に学校は子供にとって「のろわれたもの」でもあるのである。しかし、子供のなかにこそ新しい希望があり、子供においてこそ、古いものを保存する宿命的な再生産の循環を突き破られうるという新しい教育観は、大人と子供との関係の決定的価値転換に通じなければならない。教育の改革と社

会の変化との正しい関連と、そこにあらわれる問題点が正しく明らかにされなければならない。そのためには、われわれは、単純に二者択一に解答を求めることをあきらめ——もし、そうしないなら、理論は現実にあきらかにぶつかって挫折し、現実はいずれを理論的に正当化できず、こうして歴史が示すとおり、両者ともに破局にいたるほかないであろう——^{アンビヴァレンス}価値二面性と矛盾のなかで、あらゆる危険をおかしてでも自らの足で道を歩まなくてはならない。われわれはここに現実を見、そして教育はまさにこの現実性への教育となるとき、真に教育的なのである。

なおキュンメル教授は、1972、1976年の2回富山をおとずれて『計画と希望』、『人間とその役割』と題して講演をされたチュービンゲン大学教授O・F・ボルノー博士の高弟の1人である。当日の通訳には、教育学部の大塚恵一が当たった。

(大塚記)



昭和53年3月卒業予定者の求職・就職の状況

昭和52年11月末日現在

学 部 名 性 別		項 目	1	2	3	4			5	6	7
			卒 業 予 定 者 数	1 の うち 進 学 希 望 者 数	1 の うち 求 職 者 数	3 の うち 就 職 (内 定) 者 数			就 職 率 (%)	1 の うち 自 家 営 業 希 望 者	1 の うち 意 思 表 示 の ない 者
						計	県内	県外			
文 理 学 部	計	219	11	167	39	14	25	23.4	0	41	
	男	133	11	93	19	6	13	20.4	0	29	
	女	86	0	74	20	8	12	27.0	0	12	
教 育 学 部	計	238	1	237	0	0	0	0	0	0	
	男	30	1	29	0	0	0	0	0	0	
	女	208	0	208	0	0	0	0	0	0	
経 済 学 部	計	221	3	209	153	34	119	73.2	6	3	
	男	199	3	187	145	31	114	77.5	6	3	
	女	22	0	22	8	3	5	36.4	0	0	
薬 学 部	計	98	27	59	27	4	23	52.9	0	12	
	男	30	19	8	2	0	2	25.0	0	3	
	女	68	8	51	25	4	21	49.0	0	9	
工 学 部	計	288	32	234	146	56	90	62.4	2	20	
	男	287	32	233	146	56	90	62.7	2	20	
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
合 計	計	1,064	74	906	365	108	257	40.3	8	76	
	男	679	66	550	312	93	219	56.7	8	55	
	女	385	8	356	53	15	38	14.9	0	21	

◎学園ニュース編集委員会委員

学 生 部 長	岩 淵 富 治	理 学 部	教 授	堀 令 司
人 文 学 部	教 授 山 口 博	薬 学 部	助 教 授	宮 原 龍 郎
教 育 学 部	〃 大 塚 恵 一	工 学 部	教 授	沢 畠 恭
経 済 学 部	講 師 坂 口 正 志	教 養 部	教 授	奥 貫 晴 弘